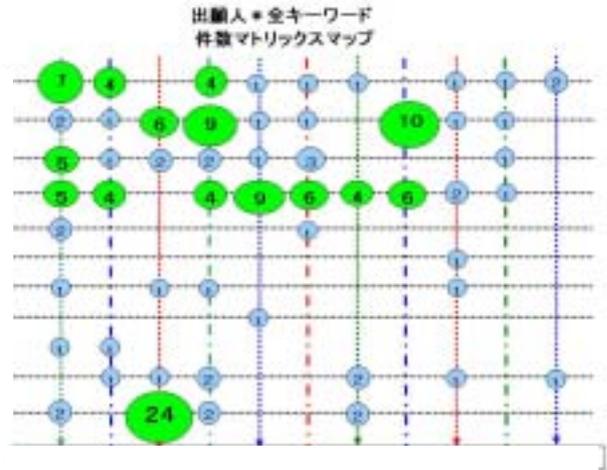
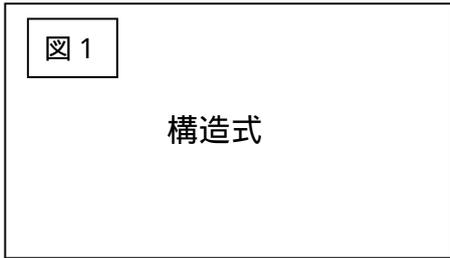




課題名: 「
申請者: - - 大学 - - 学部 - - - - - 学科
- - - - 教授

総合所見

本申請は、 - - - - 科植物中の - - - - 体に着目し、誘導体合成と本酵素の - - - 活性評価を行い、その結果、既存の代表的な - - - - 剤である - - - の17 倍の強力な - - 活性を示している化合物(図 1)を見出し、新規な - - - - 剤・ - - - 剤として開発しようとする課題であり、実用化が期待できる。In vivoでの結果や安全性試験について、今後の研究が待たれる。



特許について

出願特許
【発明の名称】 - - - - 剤と製造方法
【特許番号】特願xxxx-xxxxxx
【出願人】 - - 大学
【発明者】 - - - -、 - - - -
【特許内容】 - - - - 植物中の - - - - 体とその複数の誘導体の簡便かつ選択的な化学合成方法を開発した。その結果、 - - - を導入した - - - - 体が代表的な - - - - 剤である - - - の17 倍の強力な - - - 活性を示した。

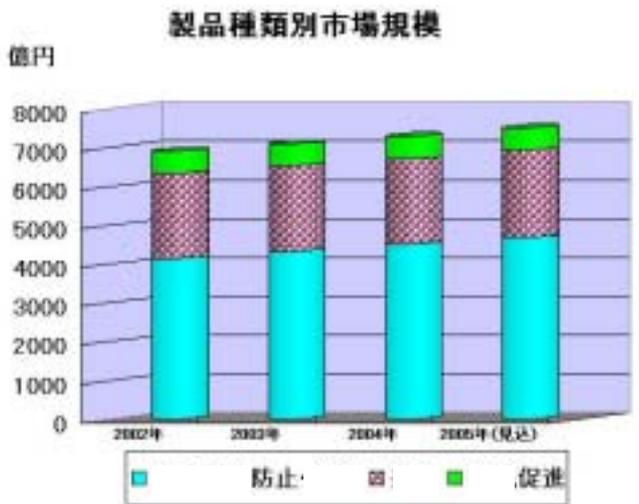
特許成立可能性等
化合物的には新規であり特許的には問題ないと考えられるが、特許法第30条第1項の規定の適用を受けようとする特許出願(未公開)である点が惜しい。応用分野として、 - - - 食品・ - - - 医薬品・農薬・化粧品等が期待されるが、それらの用途での新規出願が望まれる。特に - - - に限定するならば、 - - - の基本特許に加え、既存の成分である - - - - 剤、 - - - 物、ビタミンC、アロエ抽出物、C o Q 1 0、アラントイン等々との併用特許を取得する必要がある。
(右上図: 出願人*全キーワード 件数マトリックスマップ)
及び
(本レポート最終頁: 出願人別件数推移時系列マップ)参照)

技術優位性について

- - - - 剤としてはもっと強力なものが文献的には散見されるので、それらとの比較検討が必要である。

市場性について

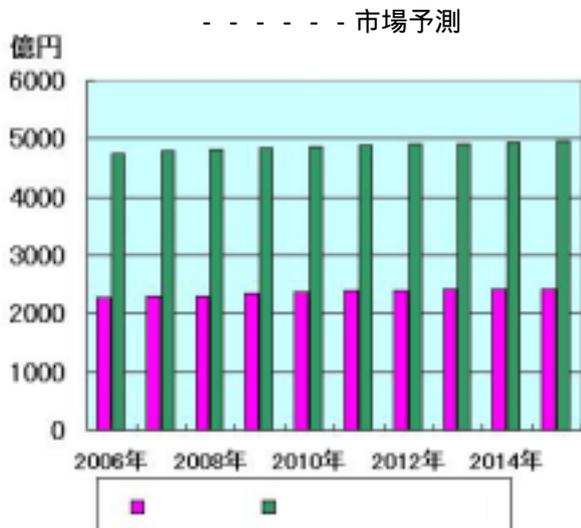
本課題の市場は - - - - - に分類され、 - - - - -、 - - - - 防止、 - - - - 促進に区分されている。本レポートでは - - - を中心に記載する。 - - - 成分としてはビタミンC 誘導体、 - - - -、 - - - - -、及び - - - - 酸がよく知られている。 - - - - 酸は一時、 - - - - 性が疑われたが、現在は使用が可能となっている。2005年の - - - - 国内市場は7, - - - 億円。このうち - - - - - 及び - - - - 関連の市場は6, - - - 億円である。市場は年率数%で成長しているがほぼプラトナ成熟市場である。しかし、各社、新規成分を熱望している。



企業毎の販売実績の経年データ

の市場は表及び図に示したように大きな市場が期待できるが、バルクを企業に販売する場合、一般的には最終販売価格の数%であるので、大きな売上は期待できないのが現状である。因みに、酸の生産量は t(H12 年)であり(製造業者:、)、品・工業原料・食品添加物に使用されている。また、技術移転対象の企業及び市場の詳細は、別添の富士経済研究所のレポートを参照されたい。(資料1:富士経済研究所レポート「2005 市場」)

分野における メーカー毎のシェア



事業可能性について

は、我が国では - 性及び品質の確保の観点から - 法により規制を受け、事前の承認・許可制や指定成分の表示等が義務づけられている。特に - の場合には、原料基準及び配合成分規格の規制に基づき認可されていたが平成3年より、 - 原料規格(- 省 - 局長通知)により審査されるようになった。 - 連合会によると「一般論的には - 試験に数千万円、 - 試験に2千万円程度、 - 製造費用程度で開発が可能である。申請から承認までの期間は2年程度が見込まれる。」とのこと。億単位の費用が掛かるので、早期に - 企業との共同研究に入り、前述の特許をカバーすることを勧める。

データ追加取得の必要性について

多角的な - 性評価により、 - 環境下で生育する植物中の - 効果を示す - 物質を単離・構造決定し、更に - 試験を併用することで、 - 環境を見据えた新規かつ実用的な - 剤の開発を行うことが必要である。

データ補完項目

- 1) - 評価系の構築
- 2) - 環境下に生育する植物からの - 物質の単離
- 3) - 物質の構造決定と構造最適化
- 4) - 物質の安全性評価

応募事業の候補について

上記データ補完後、実用化のためにJSTの「独創的シーズ展開事業 委託開発」、「産学共同シーズイノベーション化事業(育成ステージ)」、農林水産省の「先端技術を活用した農林水産研究高度化事業」へ応募することを勧める。

共同研究企業の候補について

本レポートの図中に記載されているメーカーが候補となる。

以上

出願人別
件数推移時系列マップ

